

図書館における障害者サービスのための資料

07L4305 角谷 真紀

1. 図書館における障害者サービスの歴史

日本の公共図書館における障害者サービスの始まりは、1915（大正 5）年に寄贈された点字図書により点字文庫を開設した東京市本郷図書館であるとされている。

1949 年に身体障害者福祉法が制定され、身体障害者の更生援護に資する施設として「点字図書館」を規定した。このことにより図書館に併設されていた点字部門は切り離され点字図書館として再編されていった。

1969 年、東京在住の視覚障害者の学生、市民が東京都立日比谷図書館および国会図書館に門戸開放を求めた。同年秋に日比谷図書館で対面朗読サービスを試験実行し、1970 年に正式事業化された。これが現在に続く公共図書館における障害者サービスの始まりであるといわれている。

2. 図書館における障害者サービス

図書館における障害者サービスには (1) 点字図書、録音図書、DAISY、拡大資料など、資料の変換、(2) 資料の配送、(3) 施設・設備の改善、がある。

サービスを提供している図書館には、点字図書の製作や貸出をおこなっている点字図書館、障害者サービスの支援をおこなう国立国会図書館、全国の公立図書館などがある。公立図書館では、施設の障害者対応は進みつつあるが、障害者サービス用設備・機器はまだわずかである。

3. 最近の動向

(1) 著作権法の改正

著作権法の改正で著作権者の許諾なしで録音図書などを作成できる施設の範囲、作成できる資料の種類、利用対象者の範囲が広がるなど、障害者サービスの幅が広がった。

(2) インターネット配信

点字図書館が提供する「サピエ」では、点字・音声データをネットワーク配信をおこなっている。

(3) 電子書籍

近年電子書籍市場は拡大しており、多くの図書を電子書籍で読むことができる。電子書籍や電子雑誌を音声読み上げソフトで読むことにより、視覚障害者も大量の情報にアクセス

スできる可能性がある。

4. 訪問調査

豊橋点字図書館及び名古屋市立鶴舞図書館点字文庫を訪問調査した。

(1) 豊橋点字図書館

豊橋点字図書館は昭和 42 年 10 月に開館した。県からの委託で愛知盲人福祉連合会が運営している。主な事業内容は、点字図書・録音図書の製作と貸出、点訳・音訳ボランティアの育成である。



豊橋点字図書館



録音図書作成の様子

(2) 鶴舞図書館点字文庫

鶴舞図書館は昭和 6 年に点字文庫を開始した。現在、職員は正規 2 名、嘱託 1 名で、協力者は約 200 名いる。作成する資料は、利用者の依頼を受けたものをサピエなどで他の図書館にないか探してあれば相互貸借をし、なければ製作している。資料の作成形式は、点字図書はパソコン点訳、録音図書は DAISY 形式で作成している。

5. 考察

障害者サービスを行っている公共図書館の数は多いとは言えない。しかし、今回訪問した名古屋市鶴舞図書館は充実した障害者サービスを提供していると思う。障害者サービスを行っているところと、いないところの格差が大きいと感じた。

パソコン点訳や DAISY などの資料製作、インターネット配信により資料を利用者に届けるなど、デジタル技術が障害者サービスに大きな影響を与えていると感じた。